

編集後記

『共生文化研究』第七号をお届けいたします。本号は四篇の論文を収録しています。ご投稿頂いた先生方には、心より感謝申し上げます。

本研究所は、令和三年度に新型コロナウイルス禍を理由として、それ以来、研究発表会の中止、紀要刊行の中止をはじめとする、諸々の研究活動を休止しておりました。しかし漸くコロナ禍も収束の兆しを見せましたので、本研究所を本格的に再開いたします。

従来との変更点は以下です。

- ◆『共生文化研究』は紙媒体では発刊せず、電子データ化する。
- ◆従来行っていた研究報告会を東海学園共生文化学会と改称し、『共生文化研究』投稿者を中心とした学術発表会を開催する。

(中御門 敬教)

彙報

第一回東海学園共生文化学会学術大会

主催 東海学園大学共生文化研究所

日時 令和七年十二月二十四日(水) 九時より

場所 東海学園大学 名古屋キャンパス 一三一教室

研究発表

一、聖岡上人の『一枚起請文』の注釈方法…発迹入源門と施化利生門の観点から

中村 法道（東海学園大学准教授）

二、往生者の未来成仏と名称相続…『無量寿経』と文殊仏国土の思想的連環

中御門 敬教（東海学園大学教授）

三、東海中学校伊藤祐式第四代校長とその時代

高木 茂樹（東海高等学校教諭）

四、建中寺尾張徳川家霊廟における波の意匠考察

村上 真瑞（建中寺住職）

講演

名古屋忠魂祠堂と『東海学園』

西形 久司（東海中学校・高等学校教諭）